

北海道教育大学旭川校・北海道ラグビーフットボール協会連携

令和6年度第1回ラグラグビーティーチャー研修会

令和6年6月13日（木）に標記研修会を開催しました。

昨年度に引き続き、北海道教育大学旭川校体育授業と連携し、今回で累計3回目となります。

新学習指導要領（小学校・中学校）「体育」の「ゴール型スポーツ」の一つとして、「タグラグビー」が例示種目として取り上げられ、今後、小学校におけるタグラグビーの普及の可能性が期待されています。このため、北海道ラグビーフットボール協会として、将来、受講者が小学校及び中学校の教師となった時、体育授業においてタグラグビーを取り扱ってもらうことを期待しての開催です。

第1回目は、「初等体育」履修者57名です。

①タグラグビーの学習指導要領における位置づけ ②タグラグビーの教材としての有効性
③体育授業の進め方・組み立て方 ④タグラグビー授業を成立させる環境整備等についての解説と、実技では、「導入」で、ストレッチを中心としたウォーミング・アップから、授業で使えるグルーピング・ゲームでチームビルド、「タグ及びタグベルト着用のポイント」の解説とともに、「タグコール」の実践、「タグラグビーボール（4号球）の扱い方」の順に進めました。

「展開1」では、①タグに慣れよう！：「タグ取りコンテスト」、②ボールに慣れよう！：「パスナンバーコンテスト」、③ボール・ハンドリング：「グリッド・パスナンバー」をベースに、「コーリング」「動き続ける」「スペース・ランニング」等の要素を組み込み、段階を追って、ラグビーの要素を積み重ねていく内容としました。

「展開2」では、対人スキル（1対1・2対1・3対2）で進め、連続プレーにつながるよう、段階毎のスキル解説を含めました。

特に、ラグビーの「自己犠牲」の精神にもとづく、種目特性に注目し、連続プレーにつながることを重視しました。

「まとめ」では、「5対5」のゲームを行い終了しました。

最後は、授業を行う上で必要な指導書（タグラグビーティーチャーテキスト等）の活用の仕方や用具の手配に係る情報を解説し、良い雰囲気ですべてを終了することができました。

北海道ラグビーフットボール協会では、標記研修会を5名以上の参加者がいれば要請に応じて開催いたします。研修終了者には、「日本ラグビーフットボール協会修了証」を発行いたします。

タグラグビーエドゥケーター 山内 宣明（道協会コーチ委員長）
同エドゥケーター（アシスタント） 踊場 稔洋（同 コーチ副委員長）

